



《寄稿》

山口 英教授追悼

みんなが幸せにそして楽しく過ごせる基盤を作ること
〜奴が作り上げたものと、僕らに課せられた宿題

奴が逝った。2016年5月9日のお昼、大学に着いたところでその報を受け取った。

今から数年前、奴の調子が悪くなりいろいろ調べたがなかなか分からず、2年ほど前にそれが難しい病であると明らかになった。そのときからこういう日が来ることを覚悟しつつ、それでも医学の進展に期待をしていた。そして、あまりにも早く訪れたこの日。まだ受け入れられないでいる。

奴に初めて会ったのは、たぶん、1987年の正月村井純の自宅で毎年行われていた新年会だった。僕が家の呼び鈴を鳴らすと「お召し物をお預かりします」と言いながら笑顔で玄関を開けたのが奴だった。すごくいい笑顔をする奴だった。それからしばらくして、日本でもインターネットの研究開発にかかわる活動をしようということになり、WIDEプロジェクトがスタートした。そこに、奴も僕も参加をして一緒に仕事をするようになった。当時集まっていたメンバの中で最も若かったにもかかわらず生意気な奴で、でも本当に頭が良くて、すごく勉強していて、何でも知っていて、いろんなことを真剣に考えていた。奴の業績として、すぐに思いつくのはネットワークセキュリティだが、当時から奴の研究テーマの1つはこれだった。でも、奴はもっと大きなモノを見ていた気がする。奴のネットワークセキュリティ分野での業績についてはいろんな人が語ると思うので、僕は奴の違った一面をここに遺すことにしたい。

1991年、日本でのインターネットに関する研究活動が認められて、INET '92という国際会議を翌年日本（神戸）で開催することが決まった。実行委員長は相磯秀夫先生、プログラム委員長は石田晴久先生だったが、実質的な運営はWIDEプロジェクトのメンバがあたった。当然、当時WIDEプロジェクトの代表だった村井はその中心だったわけであるが、関西での開催ということもあり、奴はローカルアレンジとして重要な役割を果たした。特にこの会議は、ほかの国際会議とは異なり単に論文の発表の場というだけでなく、インターネットの世界への展開という役割を担っていた。そのためUNESCOのサポートのもと、これからインターネットを展開するにあたって必要となる知識を学ぶためのチュートリアルなどが開催され、欧米だけでなくアジアや

- 山口 英氏 御略歴**
- 1964年 静岡県生まれ
 - 1988年5月 WIDEプロジェクト設立に携わり、ボードメンバに就任
 - 1990年10月 大阪大学大学院基礎工学研究科情報工学専攻博士後期課程を中退し、大阪大学情報処理教育センター・助手として着任
 - 1991年3月 同大学院基礎工学研究科情報工学専攻にて、博士（工学）を取得
 - 4月 奈良先端科学技術大学院大学創設準備室にて同大設立に携わる
 - 1992年10月 同大情報科学センター・助教授
 - 1993年4月～ 同大情報科学研究科・助教授
 - 1996年～2003年 JPCERT/CCを設立、運営委員会委員長
 - 1996年 Asian Internet Interconnection Initiatives (AI3)を設立し、代表に就任
サイバー関西プロジェクトを設立
 - 2000年4月～ 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科・教授
 - 2002年4月～2004年3月 同大附属図書館長を併任
 - 2002年～ JPNIC 理事
 - 2003年 JPCERT/CCの中間法人化に伴い代表理事就任（2004年5月に退任、以降は理事）
 - 2004年4月～ 内閣官房情報セキュリティ対策推進室情報セキュリティ補佐官
 - 2005年4月～2010年3月 内閣官房情報セキュリティセンター情報セキュリティ補佐官
 - 2011年6月～2013年4月 FIRST (Forum of Incident Response and Security Teams) 理事
 - 2013年4月～2015年3月 奈良先端科学技術大学院大学総合情報基盤センター長 兼 附属図書館長を併任
 - 2016年5月 逝去

アフリカの各国からの参加があった。当然、初めて日本に来る人々も多く、いろんな要望もあって裏は大変なことになっていた。実は、奴はさらに裏で翌年開校する奈良先端科学技術大学院大学の準備もやっていて本当に忙しかったと思う。しかし、文句を言うことなく淡々とやっていた。思えば、ここから奴のビジョンは展開していったのではないかと思う。

それからしばらくして、たぶん1993年頃じゃないかと思うが、電通大から(株)日本サテライトシステムズ(現スカパーJSAT(株))に就職した竹井淳さん(現Intel)が、「JSATもWIDEプロジェクトに参加したいのだが、どうすればいいですか?」という相談を受けた。JSATからの提案は数局の超小型地球局(VSAT)を設置するのでそれを使ってインターネットの研究を進めたいというものだった。村井に相談したところ面白いということで、札幌(SEC)、東大、JSAT、SFC、NAIST、九大のVSAT6局を結んで、マルチキャストや単方向通信路に関する研究をスタートさせた。このプロジェクトからは、坂本龍一さんの武道館コンサート中継(1995年11月)や阪神大震災を教訓とした災害時のインターネット展開といったさまざまな成果が誕生するが、僕らの興味は基本的に「技術」だった。しかし、奴はここに違う可能性を見出した。つまり、「衛星通信ならば電源さえあれば今通信インフラのないところにもインターネットを展開できるじゃないか」というものである。

この発想を基盤として1996年に奴はAsian Internet Interconnection Initiatives(AI3:エートリプルアイと読む^{☆1})をスタートさせた。ちなみにAI3のロゴも奴の手によるものである。1995年8月に通信衛星JCSAT-3がラウンチし、インドネシアやタイを含む東南アジア地区への通信が可能になったことを受けて、NAISTに3.6m径の衛星アンテナを設置し、ここを拠点に東南アジア地区を結ぶネットワークを構成することにしたのだ。最初にメンバーに加わったのがインドネシアのバンドン工科大学やタイのアジア工科大学院である。奴は、このプロジェクトで、技術だけではない苦勞をする。通信と

いうものは、国の根幹にかかわるものであり国によってさまざまなレギュレーションが存在する。その中でVSATを設置する許可を得て、インターネットを展開することは、時としてこうしたレギュレーションとの戦いになった。国によっては、当時インターネットを普通の人々が使うことを禁止しているところもあった。しかし奴は根気よく交渉を重ね1つ1つ実現していった。その後、2001年からAI3を基盤として「高等教育」を行うというSOI-ASIA(School on Internet/ASIA)がスタートし大きく広がっていく。インフラもないところへ行って、各国の政府との交渉で苦勞しながらこうした活動を進めていくことの意義は何なのかと奴に聞いたことがある。奴は「おまえな。インターネットを今使っているのは、全人口の10%ぐらいなんだよ。でも、世界中の人がインターネットを使えるようになったら、みんなが幸せになるだろ。だからやるんだよ」とあの笑顔で答えてきた。今にして思うと、奴がずっとやってきたネットワークセキュリティに対する取り組みも同じことなのだと思う。重箱の隅をつついて細かい問題を指摘することじゃないのである。「みんなが幸せにそして楽しく過ごせる基盤」を作るにはどうすればいいかを考えることは、ネットワークセキュリティの課題でもあるのだ。今年(2016年)、AI3は20年を迎える。9月には、それを祝うミーティングをバンドン工科大学で行うこととなっている。奴もこれを楽しみにしていた。

奴ともっともっといろんなことをしたかった。しかし、ここで止まっていたら奴に笑われてしまうだろう。僕らは「みんなが幸せにそして楽しく過ごせる基盤」を作ることを前に進めていくこととしたい。

だから英ちょっと先に休んでいてくれ。次に会ったらどんな面白いことをしてきたか話すから。ありがとう、英。またな。

(2016年6月13日)

砂原秀樹(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科)

[正会員] suna@wide.ad.jp
1960年兵庫県生まれ。1988年慶應義塾大学理工学部博士課程修了。電気通信大学情報工学科助手、1994年奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター助教授を経て、2001年から教授。2005年情報科学研究科教授。2008年4月より現職。

☆1 <http://www.ai3.net/>